（別紙８）　　［認知症対応型共同生活介護用］

１．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成19年9月25日

【評価実施概要】

事業所番号	NO.　０１７３５０１２１４		
法人名	有限会社　ドリーム建工		
事業所名	グループホーム　やちよ		
所在地	室蘭市大沢町２丁目　２６番１５号 （電　話）０１４３－４１－７２００		
評価機関名	株式会社　社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東２丁目１		
訪問調査日	平成19年9月21日	評価確定日	平成19年10月2日

【情報提供票より】（平成１９年９月１日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・(平)成　１６年　１０月　１５日		
ユニット数	２ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	２０人	常勤１９人，非常勤　１人，常勤換算２０人	

（２）建物概要

建物構造	木造　造り
	2 階建ての　１～２　階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	45,000　円		その他の経費(月額)	15,000 円 暖房費１日100円(11～4月)	
敷　金	(有)（　45,000　円）	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　円） (無)		有りの場合 償却の有無	有　／　無	
食材料費	朝食	300　円	昼食	400　円	
	夕食	500　円	おやつ	円	
	または1日当たり　円				

（４）利用者の概要（　９月　１日現在　）

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護１	8	要介護２	5		
要介護３	2	要介護４	1		
要介護５	0	要支援２	2		
年齢　平均	83.9 歳	最低	75 歳	最高	91 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	新日鉄総合病院・恵愛病院・とんけし耳鼻咽喉科クリニック・ふじかね内科･福田歯科　他

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームやちよは、緑が多く見晴らしの良い恵まれた環境にある。近隣には保育所や小学校があり、利用者は子供たちとの定期的な交流や敷地内にある畑作りなどを楽しんでいる。２階建ての中心部分は吹き抜けになっており、明るい空間と視野に入る人の気配は、２ユニットで生活する利用者が安心してゆったりと過ごせる作りになっている。対面キッチンは職員と利用者が共に作業ができるスペースで、人の出入りがスムーズである。ホームで力を入れて取り組んでいる利用者の自由な外出・散歩は、夜間も可能な限り職員の連携体制で支援している。利用者本位の自然な暮らし振りから、運営者・管理者・職員が一体となって本人のペースに添うケアを目指したサービスへの取り組みが感じ取れる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4)
	前回の外部評価で指摘された文書の記載は分かりやすい文章に改められている。利用者が一人で過ごせる居場所も工夫され、眺めの良い場所に椅子を置いている。献立については、市の管理栄養士からのアドバイスを受けられるようにする体制など、それぞれ具体的に改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4)
	自己評価は全職員で話し合い、文章化する過程でケアへの意識が高まっている。。サービスの自己評価の結果を踏まえ、改善に向けて具体的に検討し、利用者のペースに添ったケアを実践している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6)
	運営推進会議は２ケ月ごとに開催している。入居状況、行事、献立表、事故報告(インシデント・アクシデント)と、更に、自己評価・外部評価の結果も積極的に報告している。家族の参加も多いので、参加者にアンケート調査を実施し、そこでの意見を持ち帰り、サービス向上につなげている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8)
	家族の来訪は頻繁にあるので常に声をかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気をつくっている。要望、意見等に対してはユニットで話し合う事にしているが、意見箱の利用が無いので家族会などから伝わる仕組みづくりを予定している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3)
	開設当初から近隣の保育所、小学校などの学芸会や運動会に参加し、ホームへの訪問等、双方の交流を定期的にしている。また、ボランティアや実習生を積極的に受け入れ地域に開かれたホームを目指しているが、町内会に加入していないため、住民と一緒に活動する機会がない。今後、町内会への加入を話し合い、活動の場を広げていく予定である。

2．　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中での自由な外出や関わりで、その人らしい生活を支援していく独自の理念を作っているが、地域の中で生活する関係性の表現が見当らない。	○	現在、地域住民との交流が行なわれているので、具体的な地域密着型を取り入れた表現で、検討していただくことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の新採用時に理念を伝えている。休憩室に理念を掲示し確認できるようにしているが、毎月の各会議でも理念を共有し日々のケアに反映している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の保育所、小学校との交流を定期的に持ち、学芸会や運動会などに参加する一方、ホームへの訪問もある。地域の都合で、まだ町内会に所属していないため活動に参加出来ないでいるが、今後も町内会と加入への話し合いを続ける予定でいる。	○	町内会の加入から、地域住民と一緒に活動できることを期待したい。建物全部を開放した「ホーム祭り」の準備中とのことであるが、住民に認知症を知ってもらい、今後の交流の機会作りになることを期待したい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員全員で自己評価を行い、職員は自己評価を文章化する過程でケアへの意識が高まっている。また、自己評価及び外部評価の結果を運営推進会議に報告し改善等は速やかに実施している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ケ月ごとに開催している。職員の参加もあり家族参加数は増えている。入居状況、行事、献立表、インシデント・アクシデントなどを報告、また、参加者のアンケート調査も行い、そこでの意見を持ち帰り、サービス向上につなげている。	○	開設して3年が経過し、さらにより良いホームを目指し、地域・家族と一緒に作っていく方向から今後を期待したい
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の依頼には積極的に協力し、相互の理解、連携を深めている。認知症サポーターのキャラバン・メイト講師として出向き、介護予防等の相談をできるだけ引き受けるようにしている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族だよりを定期的に発行し、運営者、ユニット管理者、担当者など、それぞれの立場から1ケ月間の暮らしぶりを報告している。金銭管理は2人体制で確認し、毎月、金銭出納の原本と領収書を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の訪問は常時あり、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。要望、意見等はユニットで話し合い、会議での結果を地域の民生委員にも報告している。意見箱を設置しているが殆ど活用はされていない。	○	家族会を設置する動きがあるので、家族の思いが直接伝わる仕組みづくりを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットの職員を固定化し馴染みの関係に努力しているが、普段から2ユニットの交流場面をつくり職員の顔を知ってもらうようにしている。利用者が別のユニットに遊びに行き、職員が別ユニットで食事をするなど馴染みの関係作りに配慮している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、日常的に学ぶ機会をつくり職員の育成に具体的に取り組んでいる。職員は年間の目標を自主管理シートで見直し、3ケ月ごとに管理者と達成度を話し合っている。その他、法人内外の研修に参加し、救急講習や食材カロリーについても学ぶ機会を用意している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者はサービスの質の向上に向けて、同業者との相互研修や交流機会を積極的に勧めている。職員は他事業所で数日間実習した内容をレポートで伝え、職員間で効果的に学べるようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	基本的には、自宅からの入居を優先している。ホームを見学してもらい、本人が来られない場合は、スタッフが訪問し、本人及び家族が安心して利用できるように見極めながら対応している。入居を急ぐケースでも家族や近親者に事前に来ていただき、安心感への配慮をしている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員間では、「問題行動、傾眠、徘徊」などの言葉の使用を禁止し、一方的な対応にならないように確認しあっている。利用者の特技を活かし、畑づくりや種まきの上手な人、料理の得意な人などから、職員が学ぶという関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	発言が自由にできる雰囲気をつくり、言葉や表情から汲み取るようにしている。意思疎通が困難な場合は、職員で共通なアプローチで意思を探るように話し合っている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては、本人の想いは日々の関わりから理解し、家族の希望や想いは来訪時に聞き取ることに努めている。ユニット会議、ケア会議で利用者本位の暮らしを反映させながら、個別の具体的な計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に介護計画は、最長で3ヶ月ごとに見直しをしている。介護記録は個別具体的に記載され、用紙の下欄に「特記事項欄」が設けられており、状態の変化が注目しやすい形式に工夫されている。必要時は、臨機応変に計画を見直している。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状態、家族の要望に応じて、通院送迎等の支援は柔軟に対応している。地域と家族に対して「認知症の相談窓口」を設置している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望する「かかりつけ医・医療機関」に受診することを基本にしている。訪問診療、協力医療機関との関係を密にし、100％通院介助を行っている。結果・情報の伝達方法は家族等と話し合い、合意されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けて、ホームとして現段階で出来ることを指針として家族に提示し、同意を得ている。取扱については様々なケースをシュミレーションしているところである。	○	徐々に重度化した利用者が出はじめており、今後は家族と話し合いを重ね個別ケースへ対応すべく、「細部の体制作り」へ取り組むことを期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録は所定の場所で管理し、家族が来訪した折には閲覧しやすくしている。利用者の誇りやプライバシーを損ねることの無いように、記載してはいけない用語を決め厳しく注意を払っている。また居室訪問時は、利用者が不在でも必ず「ノック」をするように取り決めをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは個別性の支援ということで、(基本的に)利用者のペースに合わせた時間で支援をしている。寝る・食べる時間は自由で、昼近い時間に朝食を摂っている利用者もいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 　食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に係わる一連の作業は、利用者との関係作りを中心にした流れになっている。献立は利用者の希望を取り入れており、調理は職員が利用者を支える形で、利用者が主体的に行動している。食事中の会話や後片付けにも職員の気配りが行き届いている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 　曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日の日課で、開始は午後1時からになっているが、利用者のその日の希望を確認したり、入浴拒否の人には対応の工夫で個別に支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 　張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力が発揮できるように、外出や地域の行事参加の希望に合わせて支援し、役割を終えた時は必ず感謝の言葉を伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 　事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に沿って、戸外散歩は職員が付き添い何時でも自由に出かけている。買い物、ドライブ、畑の野菜の間引き、花摘みなども日常的に出かけ、車椅子対応の人にも同様に行っている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 　運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵を掛けることの弊害を理解し、生活時間帯に玄関の施錠はしていない。チャイムも鳴り、外出の気配は見落とさないように見守りと職員間の連携で支援している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 　火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルを作成し、消防署の立会いで、年一回利用者との避難訓練を実施している。職員の新雇用があったときは自主訓練をしている。	○	今後は、地域住民の協力を得るために住民参加の訓練を視野に入れ、地域連携への取り組みに期待したい。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 　食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は市の管理栄養士の指導の下で、栄養バランスに配慮している。食事や水分の摂取状況は毎日記載され、利用者個々の管理は医師と相談し、体調に合わせた支援をしている。職員全体には、水分摂取についての学習の機会を設けている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 　共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔が保たれており、不快な音や臭いは感じられない。壁面には利用者の作品が飾られ、自由に一人になれる居場所には椅子が置かれている。ホールの広い窓からは、季節感いっぱいの自然を見渡すことが出来、明るく居心地の良い空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 　居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく清潔感がある。家族の写真を飾ったり、利用者が使い慣れた「目覚まし時計」や「携帯ラジオ」等の小物や、馴染みの家具を自由に置いてもらっている。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。